

# 広島県感染症発生動向月報

[ 広島県感染症予防研究調査会 ]  
(平成24年10月解析分)

## 1 疾患別定点情報

### (1) 定点把握(週報)五類感染症

平成24年9月分(平成24年9月3日～平成24年9月30日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	0	0.00	0.31		10	百日咳	14	0.05	0.08	↗
2	RSウイルス感染症	525	1.82	0.30	↑	11	ヘルパンギーナ	92	0.32	0.65	↓
3	咽頭結膜熱	46	0.16	0.54	↓	12	流行性耳下腺炎	74	0.26	0.60	↗
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	229	0.80	0.55	↗	13	急性出血性結膜炎	1	0.01	0.02	
5	感染性胃腸炎	860	2.99	3.13	→	14	流行性角結膜炎	38	0.50	1.39	↘
6	水痘	219	0.76	0.57	↗	15	細菌性髄膜炎	2	0.02	0.01	
7	手足口病	32	0.11	1.11	↘	16	無菌性髄膜炎	8	0.10	0.05	
8	伝染性紅斑	20	0.07	0.14	↘	17	マイコプラズマ肺炎	32	0.38	0.22	↘
9	突発性発しん	146	0.51	0.63	→	18	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	

### (2) 定点把握(月報)五類感染症

平成24年9月分(9月1日～9月30日)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	51	2.22	2.34	↘	23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	90	4.29	5.43	↘
20	性器ヘルペスウイルス感染症	15	0.65	0.59	→	24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	8	0.38	1.13	
21	尖圭コンジローマ	15	0.65	0.65	↘	25	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0.00	—	
22	淋菌感染症	16	0.70	1.08	→	26	薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0.05	0.19	

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)

※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

※ 薬剤耐性アシネトバクター感染症は、平成23年2月1日から届出対象となったため、過去5年平均データはありません。

### 急増減疾患!!(前月比2倍以上増減)

- 急増疾患 RSウイルス感染症(204件→525件)
- 急減疾患 咽頭結膜熱(130件→46件)  
ヘルパンギーナ(217件→92件)

### 発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象18疾患、月報対象8疾患)について、県内178の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13, 14	19～22	15～18, 23～26	
定点数	43	72	19	23	21	178

## 2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名（管轄保健所）
一類	0	発生なし
二類	52	結核(52)〔西部保健所(8), 西部東保健所(5), 東部保健所(3), 北部保健所(2), 広島市保健所(13), 呉市保健所(15), 福山市保健所(6)〕
三類	3	腸管出血性大腸菌感染症(3) O157(3)〔広島市保健所(2), 福山市保健所(1)〕
四類	4	A型肝炎(1)〔西部保健所〕, 日本紅斑熱(3)〔東部保健所(2), 広島市保健所(1)〕
五類全数	3	アメーバ赤痢(1)〔西部東保健所〕, 急性脳炎(1)〔広島市保健所〕, 後天性免疫不全症候群(1)〔広島市保健所〕

## 3 一般情報

### (1) 水痘について

水痘は、「みずぼうそう」とも呼ばれ、感染力が強い急性の感染症ですが、広島県感染症発生動向調査による定点医療機関（小児科定点の72医療機関）からの患者報告数が、8月の152人から9月は219人と増加しました。

昨年（2019年）の11月10日には、県内において「水痘（みずぼうそう）警報」を発令しており、今後、流行する可能性もあることから、注意が必要です。

<b>病原体</b>	水痘・帯状疱疹ウイルス
<b>症状</b>	子どもでは通常発疹が初発症状で、成人では発疹が出る1日～2日前に発熱と全身倦怠感を伴うことがあります。発疹は全身性で“かゆみ”を伴い、紅斑、丘疹（発疹が隆起した状態）を経て、短時間で水疱となり、その後“かさぶた”となります。潜伏期間は2週間程度といわれています。 一般的には、倦怠感、かゆみ、38度前後の発熱が2日～3日間続く程度であることが大半ですが、成人では、子どもに比べて重症化しやすく、合併症の頻度も高くなります。
<b>感染経路</b>	感染力は強く、接触感染、飛沫感染あるいは空気感染により感染します。
<b>予防方法等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発疹や発熱などの症状がみられた場合は、なるべく早く医療機関を受診しましょう。</li> <li>※ 学校保健安全法では、すべての発疹が痂皮化するまで出席停止となります。</li> <li>最も効果的な予防方法は、予防接種（任意接種）となります。</li> </ul> また、水痘患者と接触後、72時間以内にワクチンを接種すれば、水痘の発症を免れたり、症状が軽くなったりする効果があるといわれています。

### (2) インフルエンザの予防接種について

これからインフルエンザの流行シーズンを迎えるにあたり、感染の予防や重症化防止には、インフルエンザの予防接種が、手洗い・うがいの励行等とともに最も有効な予防方法です。

<b>接種するワクチン</b>	A香港型, H1N1pdm2009及びB型の株が混合された3価ワクチンなど
<b>留意事項等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お近くの医療機関で予防接種を受けることができますが、事前に電話などで確認をして予防接種を受けてください。</li> <li>65歳以上の高齢者や60歳から65歳未満で心臓、腎臓又は呼吸器に重い病気がある方は補助が受けられますので、お住まいの市町にお問合せください。</li> <li>ワクチン接種は、多くの方々に重症化予防などのメリットをもたらしますが、接種後、腫れや発熱などの症状がみられたり、まれに重篤な症状を引き起こす可能性もあり、リスクを100%排除することはできません。この点を御理解いただいた上で、個人の選択により接種を受けるようお願いいたします。</li> </ul>

※ ワクチン接種による効果が出現するまでに2週間程度を要することから、流行が始まる前に早めの接種をお勧めします。

### (3) RSウイルス感染症について

RSウイルス感染症は、年齢を問わず、例年11月から3月に流行する感染症ですが、広島県感染症発生動向調査による定点医療機関（小児科定点の72医療機関）からの患者報告数では、今年（2020年）は7月下旬頃から増加し始め、6月の25人から、7月54人、8月204人、9月は525人と3ヶ月続けて急増しております。

県内では、9月中旬頃から減少傾向となっておりますが、全国的にも多い状況が続いており、今後の流行状況に注意してください。

○ 県内の最新流行状況は次のホームページをご覧ください。

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/57/rs-ryukoujokyou.html>

感染の予防はインフルエンザ等と同じく、こまめ丁寧な手洗いの励行が基本となります。